

県勢



気候

■気候の特徴

徳島県の気候は、南部の温暖で湿潤な太平洋側気候、北部の温暖で乾燥した瀬戸内気候、山岳部の冷涼で湿潤な山岳気候の三つに大別できる。年間の平均気温は沿岸部で17℃前後と温暖であるが、県西部や山間部では低いところで12℃前後と冷涼であり、剣山においては4℃程度と寒冷である。また、台風の常襲地域でもあり、年数回はその影響を受けており、特に県南部や那賀川上流部は大雨になることが多い。全体としては、年間を通じて温度差が少なく、総じて穏やかな気候であり、日照時間も長い。【気候-1】

しかし、二酸化炭素などの温室効果ガス濃度の上昇による地球温暖化は徳島県も例外ではなく、年平均気温はこの100年間で1.5度も上昇している。【気候-2】

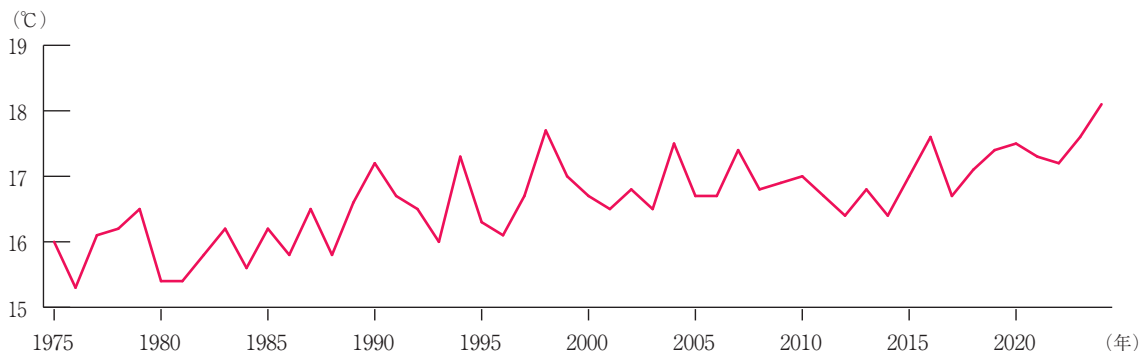
徳島県には、温暖、多雨、多湿な気候、豊富な水量などの気候風土を活かして成長した産業が多くある。古代、粟がよく実ったことから「粟(阿波)の国」と呼ばれたように、現在も吉野川流域の徳島平野を中心に、農業がさかんに行われている。地場産業である木工、木製品は、もともとは那賀川流域の木頭杉などの加工から始まったものである。また、徳島県の代表的産業に成長した製薬、化学も、かつては製塩時に発生する副産物を主原料として加工、製品化していた。(坂東宣哉)

【気候-1】気候風土に関する指標

最低気温 (2024, °C)			最高気温 (2024, °C)			年平均気温 (2024, °C)			日照時間(年間) (2024, 時間)		
順位	県名	気温	順位	県名	気温	順位	県名	気温	順位	県名	時間
1	北海道	-5.1	1	熊本	36.2	1	沖縄	24.4	1	高知	2,309
2	長野	-3.3	2	山口	35.9	2	鹿児島	20.4	2	群馬	2,285
3	岩手	-2.9	3	愛知	35.8	3	宮崎	19.3	3	埼玉	2,278
33	徳島	3.5	19	徳島	34.7	15	徳島	18.1	11	徳島	2,207
45	福岡	5.0	43	岩手・宮城・秋田	31.5	45	岩手	12.6	45	青森	1,701
46	鹿児島	5.7	46	青森	29.7	46	青森	12.3	46	新潟	1,629
47	沖縄	15.3	47	北海道	28.4	47	北海道	10.5	47	山形	1,625

注：日最低気温の月平均の最低値 注：日最高気温の月平均の最高値

【気候-2】徳島県の年平均気温の推移



地勢

■地勢の特徴

徳島県は、四国の東部に位置し、北は香川県、西は愛媛県、南西部は高知県に接している。東部は海洋(北から、瀬戸内海、紀伊水道、太平洋)に面しており、北東部は大鳴門橋で兵庫県淡路島と結ばれている。

徳島県の地形は地質の構造を反映して山、谷、川の多くが東西方向に分布している。徳島の山系は、北から阿讃山脈、中央部の四国山地、南部の海部山地の三つに大別される。四国山地には四国第二の標高の剣山(標高1,955m)を頂点に、標高1,000メートルを超える山々が数多くある。四国山地と阿讃山脈の間には、西日本を代表する吉野川(四国三郎)が流れている。吉野川をはじめとする大小の河川が、河岸段丘、扇状地、三角州を形成し、東部海岸沿いに平野部が広がっている。【地勢-1】

徳島県の面積は4,147平方キロメートルで、国土の約1.1%に相当する。山地が多く、森林面積は県土の75%を占めているため、可住地面積割合は全国平均を下回っている。

また、可住地の広がり自体に偏りがある。徳島県の人口集積は、徳島市を中心にして同心円状に周辺部へ広がるのではなく、東西方向には吉野川沿い、南北方向には海岸線沿いに带状に広がり、T字型のような形状になっている。その結果、交通の流れは徳島市に集中することとなり、慢性的な交通渋滞を発生させている。【地勢-2、3】

【地勢-1】徳島県の主な山岳と河川



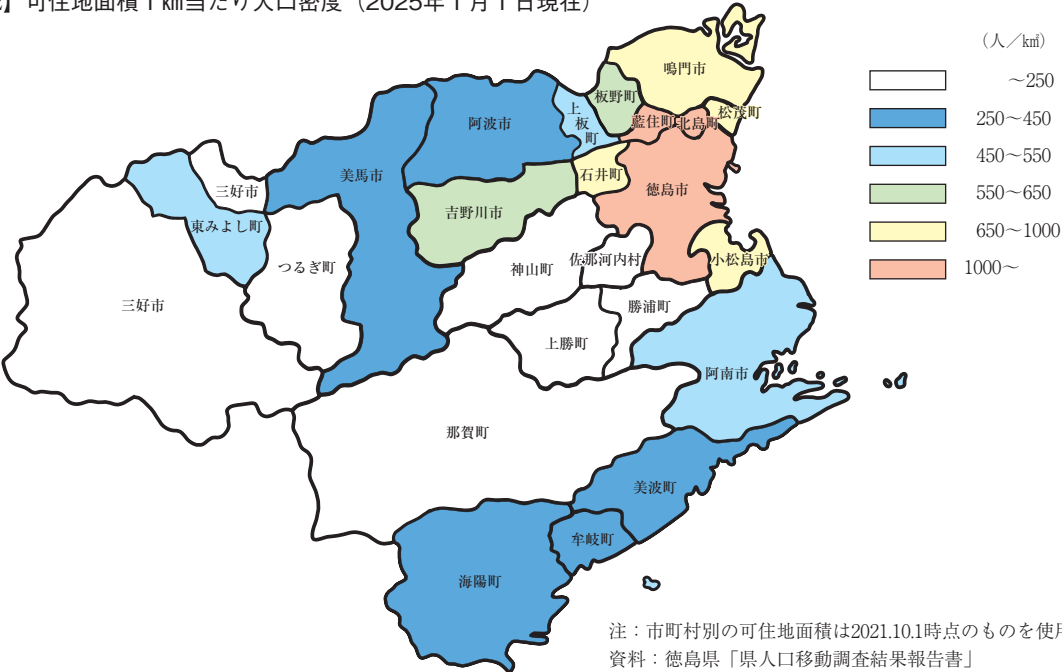
■南海トラフ巨大地震への備え

今後30年以内に80%の確率で、南海トラフ沿いでの地震(M8からM9クラス)の発生が予想されている。2025年3月の国による南海トラフ巨大地震被害想定の見直し(前回2012年度)では、最悪の場合の死者数が最大約30万人、全壊・焼失棟数が約235万棟と公表された。徳島県内では最悪の場合の死者数が、前回想定を約1万人多い約4万1千人に上ることになり、全国で4番目に多い数となった。また、津波による浸水面積も県東部の沿岸8市町で148.6平方キロとなり、前回想定の1.26倍に広がった。【地勢-4、5】

中央構造線・活断層地震の発生でも、最大震度7、死者3,440人、建物の全壊63,700棟の甚大な被害が想定されており、防災意識の更なる向上や地震災害への備えは怠れない。

(坂東宣哉)

【地勢-2】 可住地面積1 km²あたり人口密度 (2025年1月1日現在)



【地勢-3】 地勢・土地に関する指標

総面積 (2024,100km ²)			面積割合 (対全国総面積) (2024,%)			可住地面積割合 (対総面積) (2024,%)			人口密度 (可住地面積1km ² 当たり) (2024,人)		
順位	県名	面積	順位	県名	割合	順位	県名	割合	順位	県名	人数
1	北海道	834.22	1	北海道	21.03	1	大阪	70.0	1	東京	9,923.8
2	岩手	152.75	2	岩手	4.10	2	埼玉	68.5	2	大阪	6,564.1
3	福島	137.84	3	福島	3.70	3	千葉	68.5	3	神奈川	6,257.3
36	徳島	41.47	36	徳島	1.11	39	徳島	24.5	29	徳島	674.0
45	東京	22.00	45	東京	0.59	45	岐阜	20.8	45	岩手	305.2
46	大阪	19.05	46	大阪	0.51	46	島根	18.9	46	秋田	277.4
47	香川	18.77	47	香川	0.50	47	高知	16.3	47	北海道	222.2
—	全国	3,779.76	—	全国	100.00	—	全国	33.0	—	全国	1,006.9

注：北方地域及び竹島を含む

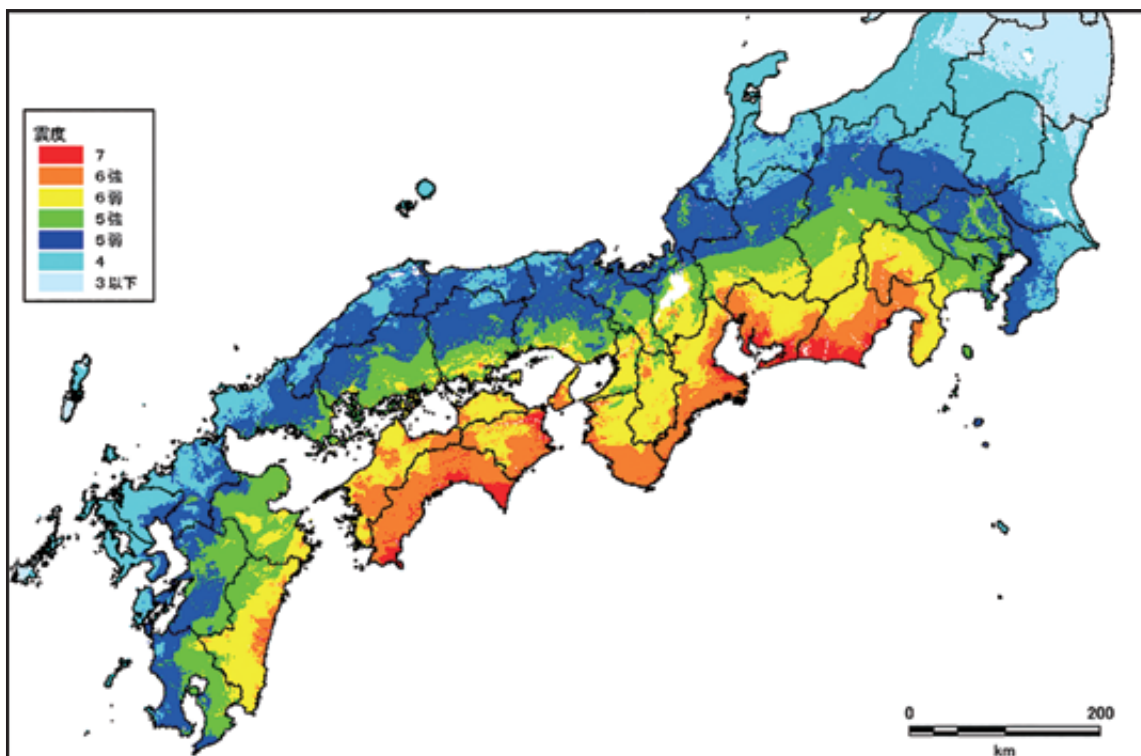
注：北方地域及び竹島を除く

注：北方地域及び竹島を除く

【地勢-4】 南海トラフ巨大地震の震度分布

(強震波形4 ケースと経験的手法の最大値の分布)

「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ報告書説明資料」 (中央防災会議, 2025)

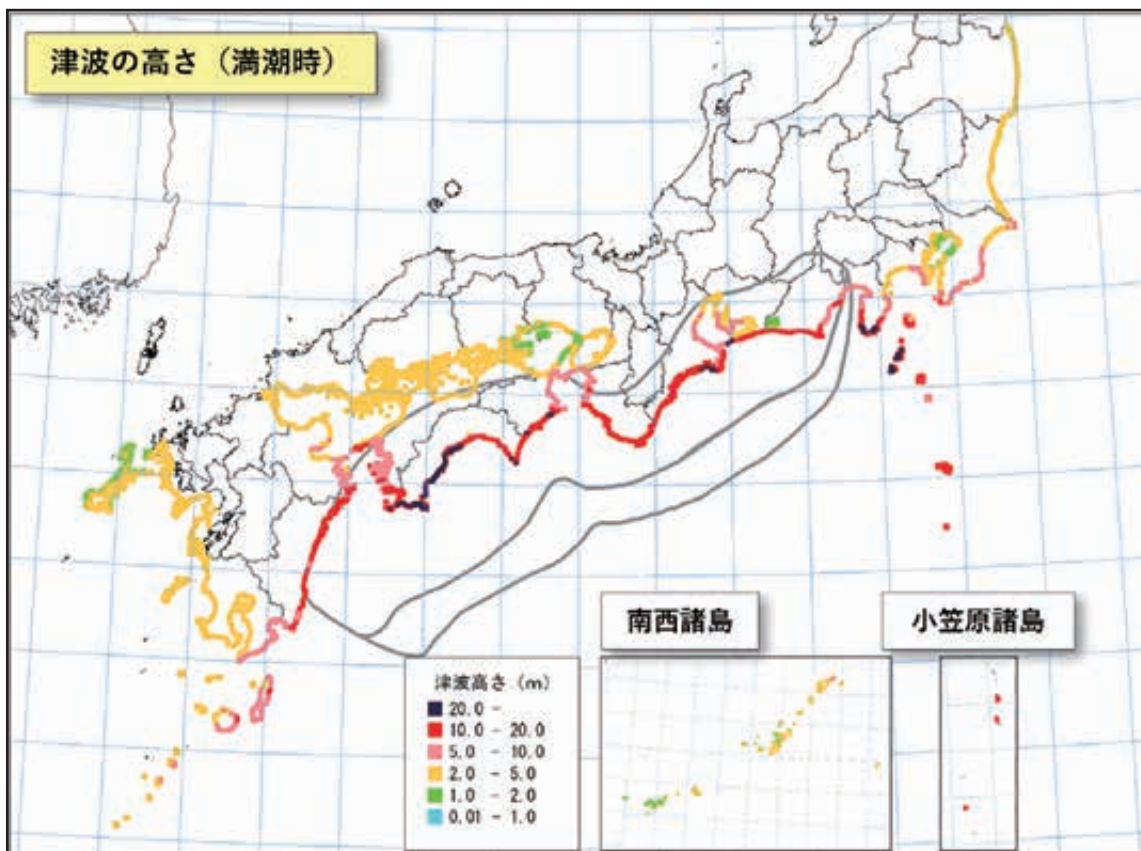


資料：気象庁HP

【地勢-5】 南海トラフ巨大地震の津波高

(全割れ全11ケースの最大包絡の津波高 (満潮位からの津波の高さ))

「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ報告書説明資料」 (中央防災会議, 2025)



資料：気象庁HP

水系

■一級水系

徳島県は豊かな水量を持つ多くの川に恵まれており、県民の川への愛着は非常に深い。河川は、上流部から小さな河川の合流を繰り返しながら、下流部へと向かうにしたがい徐々に大きな河川となり海に注がれる。これら一群の河川を合わせた単位を「水系」という。1965年に施行された河川法により国土保全上または国民経済上特に重要な水系として政令で指定されたものが「一級水系」であり、一級水系に係る河川のうち、河川法による管理を行う必要があり、国土交通大臣が指定した河川が「一級河川」である。全国で109水系が一級水系と指定されており、そのうち四国は8水系で、河口が徳島県にあるものは吉野川水系と那賀川水系の2水系である【水系-1】。

○吉野川水系

流域面積（水系全体で雨水が集まる領域の広さ）は、全国17位、四国では1位の3,750km²（徳島県63%、香川県1%、愛媛県8%、高知県28%）で、流域が四国四県に及ぶ唯一の水系であり、これは四国全域の約20%に相当する。幹川流路延長（水系の中心となる河川の長さ）は194km（全国12位）で、四国では渡川水系（四万十川を幹川とする水系）の196kmに次ぐ2位となっている【水系-2】。

吉野川流域は豊かな自然に恵まれており、源流付近に石鎚国定公園、中央部に剣山国定公園などがある。河口部では11月から1月にかけてスジアオノリが収穫され、生産量は日本一を誇る。また、吉野川は日本三大暴れ川の一つとして数えられ、本州・利根川の「坂東太郎」、九州・筑後川の「筑紫次郎」と並び、「四国三郎」の異名を持つ。2012年には各河川の活動団体により、国内の河川同士で初めて兄弟縁組が締結された。

○那賀川水系

剣山に源を発する那賀川は、流域面積が全国70位、幹川流路延長が同34位に位置しており、徳島県内だけを流れる唯一の一級河川である。吉野川の徳島県内の幹川流路延長は108km（高知県側の上流部86kmを除く）で、県内を流れる長さでは125kmの那賀川が最長となる。特徴としては、流域が国内有数の多雨地帯でありながら、地形が急峻であり流速が速く、大雨が降り洪水が発生すると短時間で急激に川の水位が上昇する反面、雨が降らなければ渇水が起こりやすいことが挙げられる。

■水質

国土交通省四国地方整備局「令和6年四国内一級河川の水質現況」によると、県内15地点のうち6地点（前年同調査では6地点）で良好な水質を維持している【水系-3】。

二級河川・海部川（海部川水系）もその透明度の高さから「知られざる清流」といわれている。流域内には、治水・利水目的の大規模なダムはなく、四国随一の清流と称されるほどの清らかな流れと、豊かな自然環境が残されている。上流には1990年に『日本の滝百選』の一つに選定された轟の滝があり、川を囲む森は『水源の森百選』（1995年、林野庁選定）に選ばれている。流域には絶滅の恐れのある貴重な種も含め、多くの動植物が生息している。

■水の郷としての特色

徳島市は『水の郷百選』（国土交通省）に選出されている。同市は、大小134本もの河川が存在する水が豊かな都市である。市内中心部を流れる新町川と助任川に囲まれた周囲約6kmの中洲は、上空から見ると「ひょうたん」の形をしていることから、「ひょうたん島」の愛称で親しまれている。

2009年に徳島市で開催された「全国水の郷サミット」では、水辺を活かしたまちづくりの先進的な事例として、周遊船が約30分をかけて一巡する「ひょうたん島クルーズ」が大きな注目を集めた。多くの市民や観光客が水上からの風景や風の心地よさを楽しんでおり、同市の重要な地域資源となっている。

これらは「ひょうたん島水と緑のネットワーク構想」に基づき、水辺を活かした個性的なまちづくりが進められてきた結果であり、行政やNPOをはじめ市民の手によって進められてきたところに大きな特徴がある。

徳島市は2012年から観光資源であるひょうたん島を中心に、船の発着や乗降ができる桟橋などの機能を持った「川の駅」や「川の停留所」を整備する「ひょうたん島川の駅ネットワーク推進事業」に取り組んでいる。中心部へ人の流れをつくるほか、移動手段としての取り組みを進め、まちのにぎわい創出につなげることを目指している。

さらに、2021年から「ひょうたん島水上タクシー」の運航を期間限定で開始した。2023年には、その運航期間が通年に拡大されている（一部区間を除く）。徳島県の委託を受け、阿波農村舞台の会と新町川を守る会が運営・運航しており、徳島市内を中心に、万代中央ふ頭、イオンモール徳島前、阿波十郎兵衛屋敷前などの計10カ所（北島町を含む）で乗降可能で、自転車の持ち込みもできる。

その他にも、ひょうたん島周辺では新町川にかかる4つの橋（ふれあい橋、両国橋、新町橋、春日橋）が徳島市の「LED景観整備事業」によりアート作品として整備され、魅力的な景観づくりに貢献しているほか、「とくしまマルシェ」や「水都祭」など、ロケーションを活かしたさまざまなイベントが開催されている。（坂東宣哉）

【水系-1】 四国の一級水系(2025年4月30日現在)

水系の名称	河川数	幹川流路延長(km)	流域面積(km ²)	河 口
吉 野 川	358	194	3,750	徳島県
那 賀 川	75	125	874	徳島県
土 器 川	11	33	127	香川県
重 信 川	75	36	445	愛媛県
肱 川	475	103	1,210	愛媛県
物 部 川	35	71	508	高知県
仁 淀 川	168	124	1,560	高知県
渡川(四万十川)	319	196	2,186	高知県

資料：国土交通省「一級河川の河川延長等調」

【水系-2】 全国の規模が大きな水系(2025年4月30日現在)

水系流域面積 (km²)

幹川流路延長 (km)

順	河 川	面 積
1	利 根 川	16,840
2	石 狩 川	14,330
3	信 濃 川	11,900
4	北 上 川	10,150
5	木 曽 川	9,100
6	十 勝 川	9,010
7	淀 川	8,240
8	阿賀野川	7,710
9	最 上 川	7,040
10	天 塩 川	5,590
11	阿武隈川	5,400
12	天 竜 川	5,090
13	雄 物 川	4,710
14	米 代 川	4,100
15	富 士 川	3,990
16	江 の 川	3,900
17	吉 野 川	3,750
18	那 珂 川	3,270
19	荒 川	2,940
20	九頭竜川	2,930
70	那 賀 川	874

順	河 川	長 さ
1	信 濃 川	367
2	利 根 川	322
3	石 狩 川	268
4	天 塩 川	256
5	北 上 川	249
6	阿武隈川	239
7	最 上 川	229
7	木 曽 川	229
9	天 竜 川	213
10	阿賀野川	210
11	渡 川	196
12	吉 野 川	194
12	江 の 川	194
14	新 宮 川	183
15	荒 川	173
16	大 井 川	168
17	十 勝 川	156
18	釧 路 川	154
19	斐 伊 川	153
20	那 珂 川	150
34	那 賀 川	125

資料：国土交通省「一級河川の河川延長等調」

【水系-3】 四国地方22河川(湖沼・海域を含む)における
BODまたはCODの地点別年平均値(2024年)

水系名	河川名	調査地点 地点数	県名	各地点のBOD年平均値※2
吉野川	吉野川	3	徳島	高瀬橋 0.5 脇町潜水橋 0.5 池田ダム 0.5
吉野川	旧吉野川	3	徳島	大津橋 0.6 牛屋島橋 0.6 市場橋 0.6
吉野川	今切川	2	徳島	加賀須野橋 0.9 鯛浜堰上流 0.9
吉野川	穴吹川	1	徳島	穴吹 < 0.5
吉野川	貞光川	1	徳島	貞光 < 0.5
吉野川	鮎喰川	1	徳島	鮎喰 1.6
吉野川	銅山川	1	愛媛	富郷ダム 0.5
那賀川	那賀川	2	徳島	那賀川橋 0.5 長安口ダム 0.6
那賀川	桑野川	2	徳島	富岡新橋 0.9 領家 0.9
土器川	土器川	3	香川	丸亀橋 1.3 祓川橋 0.6 常包橋 0.7
重信川	重信川	5	愛媛	川口大橋 0.6 出合橋 0.8 中川原橋 0.9 重信橋 < 0.5 拜志大橋 0.5
重信川	石手川	2	愛媛	市坪 1.2 石手川ダム 0.6
肱川	肱川	5	愛媛	長浜大橋 0.5 大和橋 0.5 祇園大橋 0.6 肱川橋 0.6 野村ダム 1.2
肱川	矢落川	2	愛媛	生々橋 0.9 新大橋 0.5
物部川	物部川	3	高知	深淵 0.6 戸板島 0.7 山田堰 0.7
仁淀川	仁淀川	5	高知	仁西 0.5 中島 0.5 八田堰 0.5 伊野 < 0.5 大渡ダム 0.8
仁淀川	波介川	1	高知	小野橋 1.5
仁淀川	宇治川	1	高知	音竹 1.3
渡川	四万十川	2	高知	下田 0.6 具岡 0.5
渡川	中筋川	2	高知	山路橋 0.7 中筋川ダム 0.7
渡川	後川	1	高知	後川橋 0.5
渡川	横瀬川	1	高知	横瀬川ダム 0.6

※1 「水質が良好な地点」とは、BODの年間平均値が環境省の定める報告下限値（0.5mg/L）以下である調査地点とする。

※2 河川類型指定地点はBOD平均値での評価である。

資料：国土交通省四国地方整備局

「令和6年四国内一級河川の水質現況」

人口

■人口と年齢構成

徳島県の人口は、国勢調査によると、2015年の755,733人から、2020年には719,559人と5年間で約36千人(4.8%)減少している。

国勢調査が始まった1920年に670,212人であった人口は、戦争中の一時期を除きほぼ一貫して増加を続け、1950年には878,511人を記録した。その後、高度経済成長期を迎えて大都市圏への若年層の流出が続き、1970年には791,111人にまで減少したが、1970年代に入ると、転出者数の減少などから再び増加基調となり、1985年には834,889人まで回復した。その後おおむね横ばいで推移したものの、少子高齢化の影響などにより2000年に83万人を割り込んだ後は減少幅が拡大している【人口-1】。

■将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所の推計(2023年発表)では、2045年には52万人、2050年には48万人にまで減少するとされている。前述の2045年の推計値を、過去の推計値(2018年発表)と比べると15,560人下回る結果となっている。人口減少のペースは想定よりも早く、深刻さを増している。

国勢調査(2020年)での年齢構成をみると、年少人口(15歳未満)が77,129人(11.2%)、生産年齢人口(15～64歳)が375,657人(54.4%)、老年人口(65歳以上)が238,346人(34.5%)（うち、75歳以上は122,672人、17.7%）となっており、年少人口の割合(10.9%)は全国で4番目に低く、老年人口の割合(34.2%)は4番目に高い。

今後はさらに少子化と高齢化が進み、前述の2050年の推計人口(48万人)の内訳は、年少人口が41千人(8.6%)、生産年齢人口が224千人(46.6%)、老年人口が215千人(44.8%)、そのうち75歳以上は139千人(28.8%)で、県民の4人に1人が75歳以上になるとみられている【人口-1】。

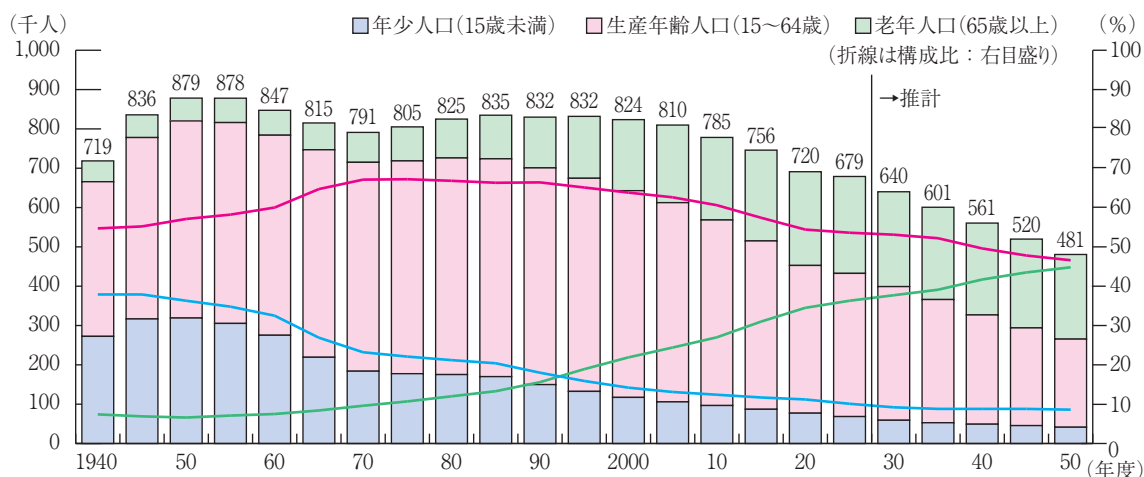
■世帯数(一般世帯)

世帯数は307,358(2020年国勢調査)で、2015年に比べ約2千世帯(0.8%)増加した。

そのうち単独世帯は109,570で、前回より約12千世帯(11.7%)増加し、全体の約1/3を占めている。これまで増加が続いていた核家族世帯(夫婦のみの世帯や夫婦と子から成る世帯など)は減少に転じ、核家族以外の世帯(夫婦の親などが含まれる大家族の世帯など)も減少している。

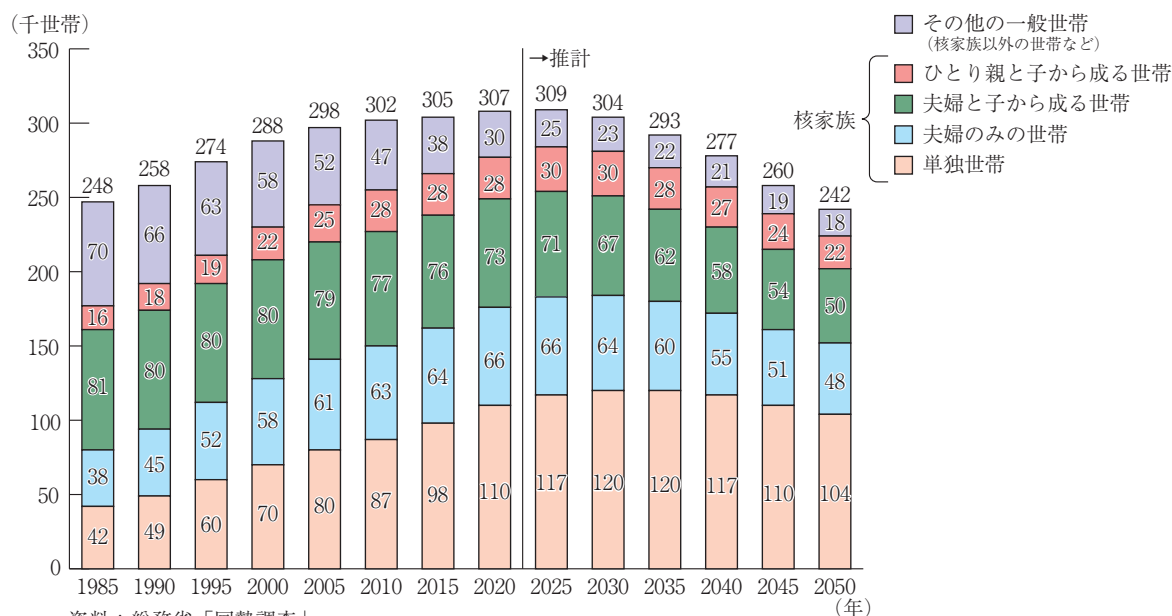
国立社会保障・人口問題研究所の推計(2024年発表)によると、2050年には世帯数(一般世帯)は242千世帯にまで減少すると推計されている【人口-2】。

【人口-1】徳島県の人口と年齢構成



資料：総務省「国勢調査」
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

【人口-2】世帯数と世帯構成



資料：総務省「国勢調査」
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」（2024年推計）

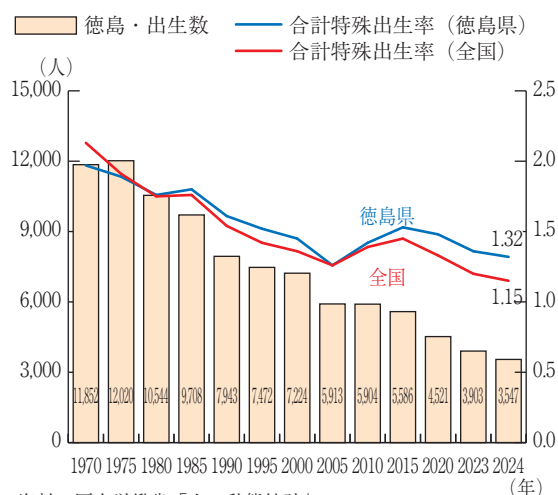
■少子高齢化

生まれた子どもの数（住民票の記載をした者）は多少の増減はあるものの減少傾向が続き、2024年の出生数は3,547人となった。なお、合計特殊出生率（女性1人が生涯に産む子どもの平均数）は、2005年から2015年にかけて一時的な上昇が見られたものの、以降は下落に転じている。2024年は1.32（全国平均1.15）であり、依然として減少傾向にある。

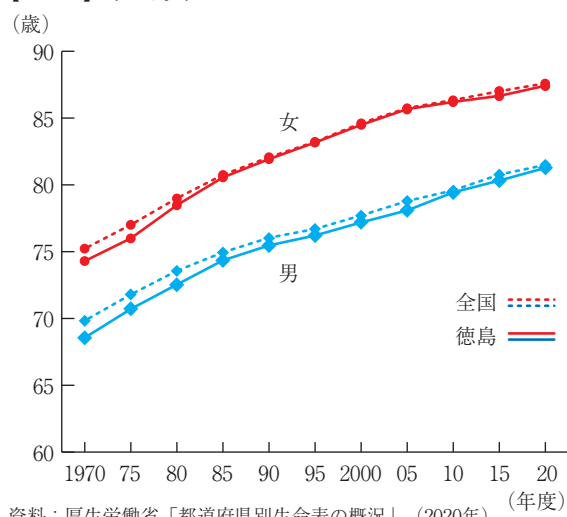
年齢別未婚率の推移をみると、どの年齢層も1975年から2005年にかけて上昇した後、2005年以降は高止まりの状態が続いており、出生数減少の一因となっている【人口-3.5】。

また、平均寿命は年々延びており、2020年は男性が81.27歳(全国81.49歳)、女性が87.42歳(同87.60歳)となっている。長寿命化と出生数の減少が同時に進むことで、徳島県においても少子高齢化の進行が加速している【人口-4】。

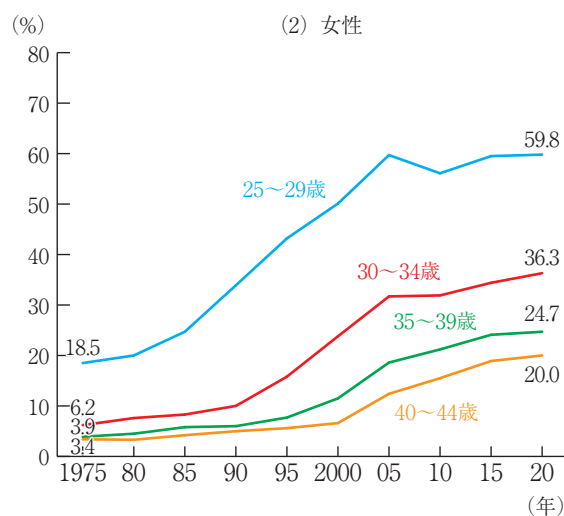
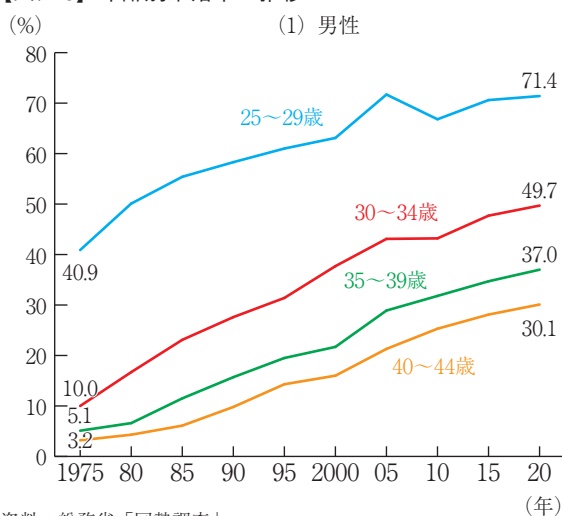
【人口-3】 合計特殊出生率と出生数の推移



【人口-4】 平均寿命



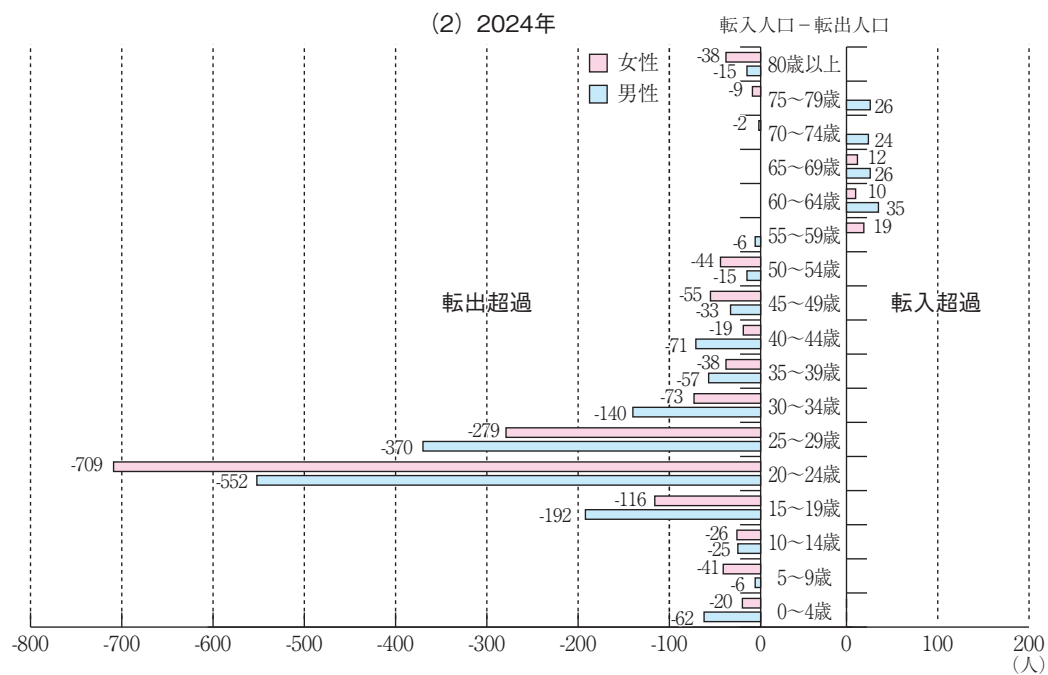
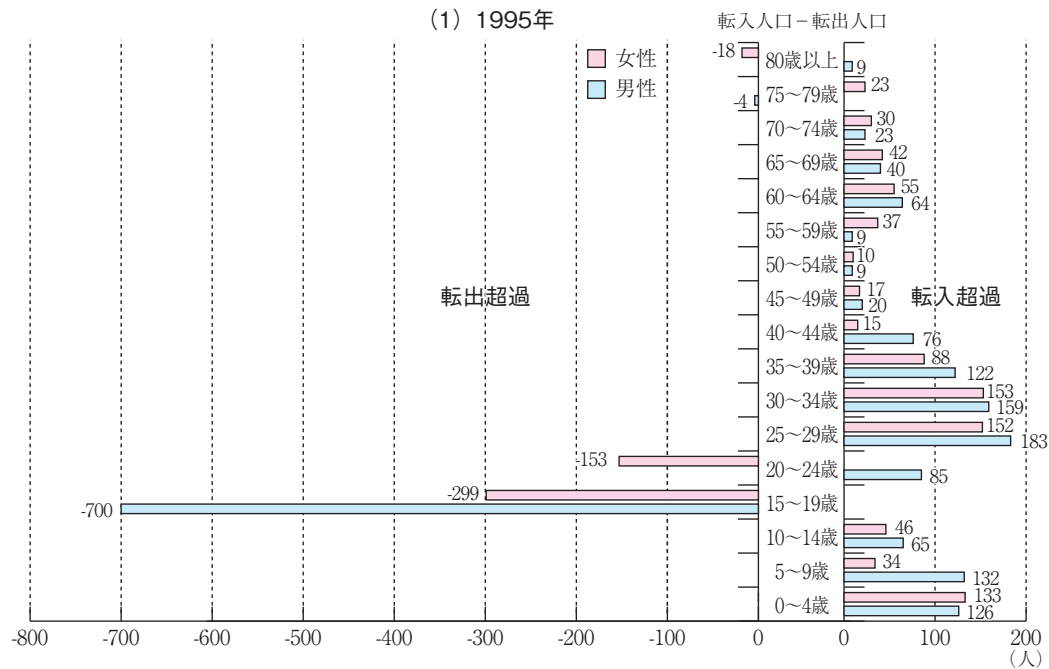
【人口-5】 年齢別未婚率の推移



■転出人口の増加

徳島から県外へ転出する人の動きをみると、1995年は15～19歳の男女、20～24歳の女性のみが転出超過となっていたのに対し、2024年は50歳以下のほぼ全ての層で転出超過となっている。特に、2024年の20～24歳の女性の流出超過数は男性の1.28倍にあたる。大学進学率の向上などにより、県外で進学し、そのまま就職する若者や女性が増えたことで、県内における人口減少がいっそう進んでいる【人口-6】。

【人口-6】 徳島県の転入人口－転出人口の比較（男女・年齢階層別）



注：国外への転出・国外からの転入を除く
資料：徳島県「徳島県人口移動調査年報」

■人口転出先・転入元となる都道府県

徳島から県外への転出先(国外を除く)の1位は大阪府の1,773人、次いで香川県の1,248人、兵庫県1,195人などとなっている。転入元(国外を除く)の第1位は大阪府で1,155人、次いで香川県970人、兵庫県870人などとなっており、転出・転入ともに近畿地方と四国内とで全体の約5割程度を占めている【人口-7】。

【人口-7】徳島県の人口転出先・人口転入元都道府県上位5位

(人、%)

		徳島県から転出					徳島県へ転入				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年	都道府県	大阪	香川	東京	兵庫	愛媛	大阪	香川	兵庫	東京	愛媛
	人数	1,815	1,325	1,217	1,164	692	1,336	1,140	1,003	799	722
	構成比(%)	14.9	10.9	10.0	9.5	5.7	13.5	11.5	10.1	8.1	7.3
2023年	都道府県	大阪	香川	兵庫	東京	愛媛	大阪	香川	兵庫	東京	愛媛
	人数	1,782	1,254	1,253	1,168	742	1,223	1,090	930	732	663
	構成比(%)	14.8	10.4	10.4	9.7	6.2	10.3	9.2	7.8	6.2	5.6
2024年	都道府県	大阪	香川	兵庫	東京	愛媛	大阪	香川	兵庫	東京	愛媛
	人数	1,773	1,248	1,195	1,169	651	1,155	970	870	706	616
	構成比(%)	15.3	10.8	10.3	10.1	5.6	13.2	11.1	10.0	8.1	7.1

資料：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告年報」

注：転出・転入とも国外を除く

■市町村別人口

各市町村の人口は、徳島市が252千人(2020年国勢調査)で県内の約1/3を占め、次いで阿南市(69千人)、鳴門市(55千人)の順となっており、これら3市で徳島県全体の1/2を超える。一方、1万人に満たない町村は、上勝町(1,380人)、佐那河内村(2,058人)など9町村にのぼる。そして、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づく「過疎地域」に13市町村(全部過疎11、一部過疎2)が該当している【人口-8】。

2050年にかけては、全ての市町村で人口減少が進む。那賀町や牟岐町など5市町村は、2020年から2050年にかけて、人口が現在の4割以下まで減少するとみられている。一方、現在の人口の9割以上の人口を維持するのは北島町のみで、徳島市周辺部も7割程度の人口を維持するとみられる【人口-8、9】。

65歳以上人口の割合は、上勝町(55.9%)、神山町(54.3%)、牟岐町(53.9%)、那賀町(51.8%)で5割を超えているほか、4割超は6市町村にのぼる。一方、北島町(25.7%)、藍住町(25.8%)、松茂町(26.9%)の3町は2割台にとどまっている。15歳未満人口の割合をみると、北島町(15.0%)・藍住町(14.7%)・松茂町(12.9%)の順に高く、最低は神山町(6.0%)で、牟岐町(6.2%)、上勝町(7.0%)と続いている。

【人口-8】市町村別人口（総人口）

(人)

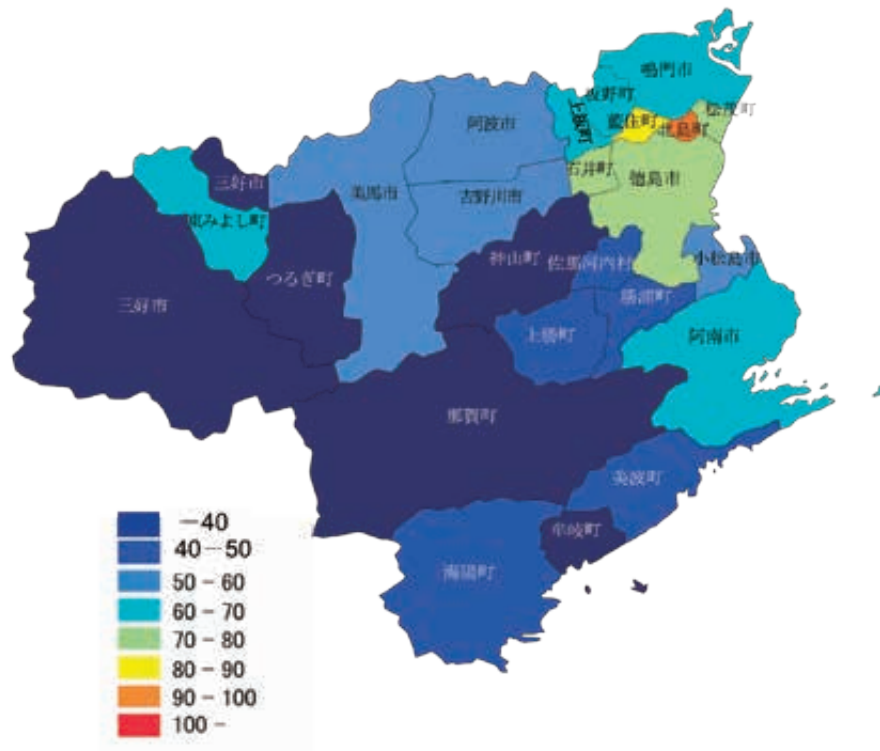
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
徳島県	785,491	755,733	719,559	679,024	640,164	600,769	560,529	519,810	480,669
徳島市	264,548	258,554	252,391	244,731	235,582	225,797	215,077	203,711	192,475
鳴門市	61,513	59,101	54,622	51,328	47,902	44,392	40,760	37,129	33,701
小松島市	40,614	38,755	36,149	33,277	30,765	28,219	25,683	23,163	20,786
阿南市	76,063	73,019	69,470	64,779	60,577	56,330	52,127	48,008	44,094
吉野川市	44,020	41,466	38,772	35,584	32,929	30,321	27,720	25,115	22,633
阿波市	39,247	37,202	34,713	31,492	28,897	26,392	23,903	21,438	19,115
美馬市	32,484	30,501	28,055	25,253	23,027	20,888	18,819	16,799	14,908
三好市	29,951	26,836	23,605	20,352	17,580	15,120	12,949	10,949	9,148
勝浦町	5,765	5,301	4,837	4,343	3,881	3,436	3,021	2,636	2,291
上勝町	1,783	1,545	1,380	1,220	1,068	935	829	737	664
佐那河内村	2,588	2,289	2,058	1,829	1,620	1,416	1,212	1,036	877
石井町	25,954	25,590	24,833	23,991	23,035	21,965	20,818	19,624	18,434
神山町	6,038	5,300	4,647	4,025	3,477	2,986	2,560	2,179	1,838
那賀町	9,318	8,402	7,367	6,304	5,364	4,532	3,798	3,145	2,575
牟岐町	4,826	4,259	3,743	3,249	2,792	2,386	2,011	1,671	1,382
美波町	7,765	7,092	6,222	5,489	4,807	4,167	3,587	3,078	2,633
海陽町	10,446	9,283	8,358	7,453	6,600	5,795	5,043	4,351	3,720
松茂町	15,070	15,204	14,583	14,192	13,690	13,135	12,484	11,736	10,982
北島町	21,658	22,446	22,745	22,821	22,640	22,308	21,864	21,266	20,594
藍住町	33,338	34,626	35,246	35,228	34,806	34,126	33,189	32,024	30,749
板野町	14,241	13,358	13,042	12,289	11,718	11,101	10,397	9,655	8,928
上板町	12,727	12,039	11,384	10,664	9,937	9,188	8,433	7,642	6,884
つるぎ町	10,490	8,927	7,715	6,713	5,851	5,048	4,319	3,669	3,074
東みよし町	15,044	14,638	13,622	12,418	11,619	10,786	9,926	9,049	8,184

資料：総務省「国勢調査」（2010年、2015年、2020年）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」（2025年以降）

【人口-9】総人口指数（2050年）

(2020年 = 100)



徳島県	66.8
徳島市	76.3
鳴門市	61.7
小松島市	57.5
阿南市	63.5
吉野川市	58.4
阿波市	55.1
美馬市	53.1
三好市	38.8
勝浦町	47.4
上勝町	48.1
佐那河内村	42.6
石井町	74.2
神山町	39.6
那賀町	35.0
牟岐町	36.9
美波町	42.3
海陽町	44.5
松茂町	75.3
北島町	90.5
藍住町	87.2
板野町	68.5
上板町	60.5
つるぎ町	39.8
東みよし町	60.1

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

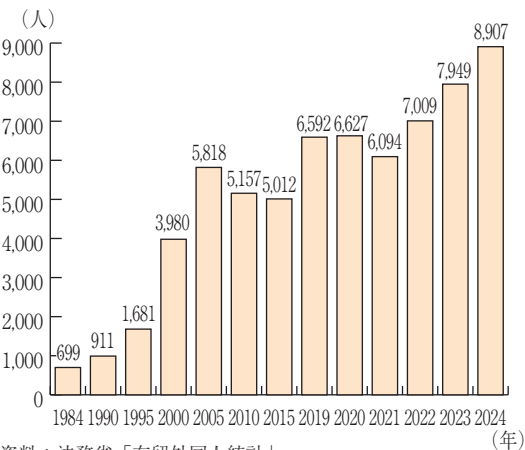
外国人登録者

徳島県の外国人登録者数は2024年末に8,907人となり、前年(7,949人)に比べ958人増加した【人口-10】。

国籍別にみるとベトナムが2,366人で全体の26.6%を占めている。次に中国、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、韓国、カンボジア、ネパールと続き、アジア出身者の比率が93.0%と圧倒的に多い【人口-11】。

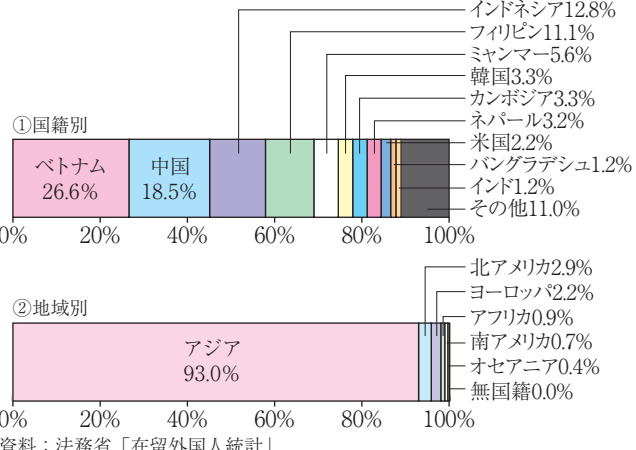
(兼子知世)

【人口-10】 徳島県の外国人登録人口の推移



資料：法務省「在留外国人統計」

【人口-11】国籍別・地域別の外国人登録者(2023年)



資料：法務省「在留外国人統計」

【人口-12】 人口に関する指標

総人口 (2020,万人)			年少人口(15歳未満)割合 (対総人口)(2020,%)			生産年齢人口(15~64歳未満)割合 (対総人口)(2020,%)			老年人口(65歳以上)割合 (対総人口)(2020,%)		
順位	県名	人数	順位	県名	割合	順位	県名	割合	順位	県名	割合
1	東京	1,405	1	沖縄	16.6	1	東京	66.1	1	秋田	37.5
2	神奈川	924	2	滋賀	13.6	2	神奈川	62.7	2	高知	35.5
3	大阪	884	3	佐賀	13.5	3	愛知	61.7	3	山口	34.6
44	徳島	72	43	徳島・高知	10.9	38	徳島・山形	54.9	4	徳島・島根	34.2
45	高知	69	45	北海道	10.7	44	山口	53.9	45	愛知	25.3
46	島根	67	46	青森	10.5	45	島根・高知	53.6	46	東京	22.7
47	鳥取	55	47	秋田	9.7	47	秋田	52.8	47	沖縄	22.6
-	全国	12,615	-	全国	11.9	-	全国	59.5	-	全国	28.6

(総人口～老年人口割合)
資料：総務省「国勢調査」

注：不詳補完値による

注：不詳補完値による

注：不詳補完値による

合計特殊出生率 (2024,-)			自然増減率 (2024,%)			転入超過率 (2024,%)			外国人人口 (人口10万人あたり)(2020,人)		
順位	県名	割合	順位	県名	割合	順位	県名	割合	順位	県名	人数
1	沖縄	1.54	1	沖縄	-2.3	1	東京	0.56	1	東京	4,011.8
2	福井	1.46	2	東京	-3.7	2	埼玉	0.30	2	愛知	3,436.0
3	宮崎	1.43	3	滋賀	-4.4	3	神奈川	0.29	3	群馬	3,057.6
14	徳島	1.32	40	徳島	-11.2	44	徳島	-0.41	34	徳島	812.0
45	北海道	1.01	45	岩手	-12.7	45	岩手	-0.43	45	岩手	605.6
46	宮城	1.00	46	青森	-13.0	46	青森	-0.45	46	青森	465.0
47	東京	0.96	47	秋田	-15.6	47	高知	-0.48	47	秋田	400.5
-	全国	1.15	-	全国	-7.2	-	全国	-	-	全国	2,177.7

資料：厚生労働省「人口動態調査」

(転入者数-転出者数)／総人口

資料：総務省「国勢調査」
注：不詳補完値による